



編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団業務部
 業務管理グループ
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

環境学習指導者養成講座 現在開講中！（中間報告）

環境パートナーシップちばが千葉県から受託した「平成23年度環境学習指導者養成講座実施事業」は指導者養成講座（導入コース）、同（発展コース）と、指導技能向上講座の3つの講座が含まれています。この「だより82号」が皆さんのお手元に届く12月初旬は、導入コースが終了し、発展コースが実施中、技能向上講座が開講直前という時期だと思しますので、中間報告をさせていただきます。

(1) 環境学習指導者養成講座（導入コース）

導入コースは「こんな人募集！ 始めたい！ エコ活動 広めたい！ 環境学習」をキャッチコピーとして、定員40名の受講生を募集して10月5日に開講しました。

募集期間が短く、丁寧できめ細かな受講勧誘活動が足りなかったのか、残念ながら受講生は15名にとどまりましたが、その分、アットホーム的でよくまとまった講座になりました。15名の内訳は、男性11名、女性4名、年齢は18歳～71歳でした。

内容は、

- ・アイスブレイキング
- ・環境保全活動とは、環境学習とは
- ・水から学ぼう、行動しよう
- ・ゴミと環境と私
- ・学校ビオトープ
- ・里山保全活動
- ・イベント開催の体験
- ・省エネのためにできること

というものでした。

講師は、当会のメンバーを中心とした、非常に経験豊かな実践者の方々をお願いしました。それぞれの分野での活動経験を豊富に入れ込んだ講座内容は受講生の方たちにとっても好評で、講座終了時のアンケートでも、よかったこととしてあげられていました。

(2) 環境学習指導者養成講座（発展コース）

発展コースは、すでに地域で環境学習を実践している方々が対象の、問題解決型、参加体験型の環境学習指導技術を身につけていただくための講座として企画しました。

「体験しよう！ 対話というつながりから」という副題からもお分かりいただけるように、アクティビティの実習体験をしながら、対話（コミュニケーション）の大切さやその技術を学ぶことが、発展コースのテーマです。また、2日目の谷津干潟自然観察センターの講座では、自然観察のいろいろな技術を学び、自然観察、自然体験を環境教育につなげることを学ぶ講座です。

発展コースの定員は30名で、現在26名の受講生の参加で講座はスタートしています。募集開始からしばらくは応募者が非常に少なかったため、開講前の1週間で、講座担当者が必死でお誘いした結果、東京都葛飾区、鴨川市、栄町など各地から受講生が集まってくださいました。内訳は男性16名、女性10名で、年齢は32歳～76歳です。

現在、2日目の講座が終了したところです。今回の受講生のみなさんはすでに豊富な経験や実績をお持ちの方が多く、対話や合意形成が最初から良い感じで行われているという印象を受けました。これからどんな風にさらなる成長をなさるのが、とても楽しみです。

(3) 環境学習指導技能向上講座

この講座は仕上げのための講座です。すでに環境学習指導者として活動されている方が、ファシリテーター（進行役）＜インストラクター（指導員）、インタープリター（解説者）としての資質をさらに向上させるための講座で、

- ・環境学習指導のための話し方講座
- ・ファシリテーション実践
- ・情報の活用と学校での学習
- ・持続可能な社会の構築のために

という4回の講座で構成されています。12月7日が開講ですが、もしかしたら、まだ受講可能かもしれません。受講ご希望の方は、下記にお問い合わせください。環パのHPもぜひご覧ください。（<http://kanpachiba.com/>）

【問合せ先（講座事務局）】

電話：090-8116-4633

メール：kanpanojimukyoku@ezweb.ne.jp
 （文責 小倉）

印旛沼流域環境・体験フェア 開催

印旛沼流域環境・体験フェアが、10月22日（土）午前11時～午後3時まで、佐倉ふるさと広場向かい、鹿島川・印旛沼で開催されました。当日の朝までの大雨が、午後には青空まで見えるという、奇跡のようなお天気に恵まれました。

開催までの経緯は、平成21年度まで、印旛沼再生行動大会と併せて2月に実施していましたが、寒くて参加者が少ないことや、会場が印旛沼に面していないことから、22年度は8月（大変暑い日でした）に佐倉ふるさと広場で開催し、Eボートを使用する等印旛沼に直接ふれてもらい、水辺を活用しました。今年度も継続され10月の開催に至りました。

開催目的は、流域住民・県民に対し印旛水質浄化を啓発し、また健全化計画を周知させる。特に、水辺を実際に活用することで、印旛沼への興味を持たせ、ひいては印旛沼浄化の活動につなげることです。開催内容は、①流域13市町ブース：農水産物・名産品の紹介・環境関連の展示等。名産

品の紹介・環境関連の展示等。②パネル展：関係団体・流域団体の活動紹介パネル展、関連商品の販売等。③流域市町トップセールス：流域13市町長が、農水産物や名産品の紹介。他にも多くの企画がありました。

同時開催として、佐倉市一斉清掃は雨のため中止でしたが、第1回Eボート千葉大会-いんば沼-がありました。当会出展ブースでは、会の紹介や、印旛沼をきれいにする活動（印旛沼親子Eボート体験）を展示し、千葉県環境学習指導者養成講座（導入コース）のインターン生の拠点としました。また、第1回Eボート千葉大会の後援や実行委員長なども担当し、流域ウォーキングにも協力しました。（詳細は<http://inba-fair.org/>）雨上がりで足元が気になる会場でしたが、ブース間や来場者との交流や、Eボート大会など水辺との一体感を体験し、フェアのキャッチコピー「みんなをつなぐ印旛沼」を実感しました。（文責 桑波田）

「Eボート千葉大会-いんば沼」がにぎやかに開催されました！

2011年10月22日（土）印旛沼につながる鹿島川を会場に「Eボート千葉大会-いんば沼」の記念すべき第1回が開催されました。

開催日前の夜半から朝までの猛烈な雨が^{うそ}のようになり、秋の雲が天高く行きかう一日となりました。

この大会は、地域間、世代間交流を活性化させる一役を担い、自然環境や人、モノといった地域資源を活かし、【環境・Environment】【交流促進・Exchange】【教育・Education】【防災・Emergency】を目標としました。

Eボートについては、だより81号-3を参照ください。

運営は、佐倉のNPOの皆さんが主体となり、千葉県や環境パートナーシップちば代表も参加して実行委員会を組織し、更にお台場Eボート大会で実績のあるNPO法人地域交流センターが事務局の大きな力となって実施されました。

レースは、初めての川ということもあって、どのチームも記録は回を重ねる毎に慣れてよくなっていました。

印旛沼でEボートが賑やかに行き交う景観の中、市民の皆さんも楽しんでいただけたようで、来年の開催も楽しみです。以下参加チーム18チーム



のレース結果です。

一般の部		(タイム)
1位	NPO法人 海猿火組	1'26"87
2位	日本トレセン	1'34"74
3位	ゴルゴ10	1'35"43
ファミリーの部		(タイム)
1位	沼っこチーム	1'50"27
2位	チーム クリアウォーター	1'56"28
3位	HiPPCO	2'04"29

(文責 横山)

印旛沼流域環境・体験フェア 環境講座インターン生の参加

環境保全活動や環境学習にはイベント開催がとても重要な要素になるので、環境学習指導者養成講座（導入コース）にはイベント体験という講座を設けてあります。昨年度は「エコメッセ2010」を講座に取り込んで実施したのですが、今年度は講座の開講期間中に開催された印旛沼流域環境・体験フェアをイベント体験の場として使わせていただきました。すなわち、フェアに出展したいろいろな環境保全団体のブースにインターンとしてイベント活動実施の体験をしていただいたのです。

体験していただいた活動内容としては、Eポート大会、物品販売、展示説明、豚汁づくり、ドジョウつかみ取り、里山ウォーキング、などがありました。

今年度の養成講座は実施期間が1ヶ月（10月5日～11月5日）と非常に短かったために、受講生の方たちに事前説明をほとんど行うことができなかったというのが大きな反省点でした。また、イベントというのは当日よりも事前（計画・準備）が大変なのですが、体験できたのはイベント当日だけだったというのも、残念なことでした。

受講生の方たちは、忙しいブース、お客の来ないブースなど、それぞれでいろいろな経験をしてくれた

ようです。また、担当したブースの活動のほか、フェア全体を見学して、出し物の

企画内容、お客を引き付ける工夫などを、自分たちも楽しみながら学ぶことができました。

このイベントにインターンとして参加することによって、今まで印旛沼にあまり関心のなかった受講生が印旛沼に関心を寄せるきっかけとなったことが、受講生の「ふりかえり」に書かれていたことも、大きな収穫だったと思います。

（文責 小倉）



歩きました！ ユーカリが丘から佐倉ふるさと広場まで 「流域ウォーキング」（印旛沼流域環境・体験フェア初企画！）

10月22日（土）朝、雨上がりの京成ユーカリが丘駅・北口前広場に集合しました。前日からの雨で、私は「今日は、中止かな？」等と都合の良い想像をしていたところでしたが、雨が上がりつつある朝、担当さまからのお電話で、覚悟を決めました。参加は約20名。

京成ユーカリが丘北口方面からしばらく市街地をたどり、やがて手繰川の左岸に出ます。堤防を兼ねた道には、植物等の姿があります。さらに進んで臼井台の市街地から臼井城址に到着。

公園になっている城址の静かな佇まいは、ちょうど良い休憩場所です。遠くに印旛沼の全景を望みます。ここに昔、城が築かれたのもわかります。

城址の台地から、印旛沼の低地に下ります。沼が近い所には、地元の保育園児らが大人と一緒に育てている花の畑などがあります。良い風景です。そして印旛沼（西沼）南岸に出ます。

ここからは、印旛沼（西沼）南岸に沿った堤防を兼ねた道を、佐倉ふるさと広場までひたすら歩きます。

コース全体の最終過程なのですが、実はここか

らが結構大変。佐倉ふるさと広場の良く目立つ「風車」は遠くに観えているのですが、いつまでも着きません…。

そうしてようやく合流できた「印旛沼流域環境・体験フェア」は、ちょうどお昼頃、一番にぎやかに盛り上がっていました。

このように無事実施された「第1回」の流域ウォーキングでしたが、千葉県・県土整備部河川環境課方からの事前諸連絡や当日の丁寧な資料・案内、等のおかげで、不安なく参加させていただきました。ありがとうございました。

ところで、自身が歩いてみて改めて思いました。「歩く」ことは、とても効果ある学習方法だと。

（文責：指導者養成講座インターン 若月 聡）



10月のエコサロン

驚き！販売されている種に日本産が見つからない！

市民、専門家、企業、行政などから、環境問題に関する話題を提供していただき、参加者と膝を交えて楽しく意見交換や情報交換をする場としてエコサロンを、毎年5回ほど開催してきました。今回は50回目で、長年開催できたことへの感謝と今後も継続していきたいと思えます。

10月の話題提供者は、「環境保全型農業～農家と消費者を育てる～」について、(有)ナチュラルシードネットワーク代表取締役の石井吉彦氏をお招きしました。

当会は、千葉県県民交流・文化課の「企業・NPOによるパートナーシップ事業」に応募し(有)ナ

チュラルシードネットワーク様とパートナーシップ事業を展開することとなりました。そこで、石井氏の活動や、印旛沼の水質浄化と農業の在り方、有機農業等について知りたいとエコサロンを設けました。開催日は、10月28日(金)午後6時～8時、千葉市民活動センターで、約20名の参加者(会員、河川環境課、県民交流課他)でした。まず、市販されている種の生産国に日本がありますか？有機農法と無農薬農法の野菜の味の違いは分かりますか？等、石井氏の話に「目からうろこ」でした。(文責：広報部)

ナチュラルシードネットワークの活動について

有限会社ナチュラルシードネットワーク代表取締役
農事組合法人ナチュラルシード事務局長
NPO日本生態系農業協会 副理事長
NPO地域創生機構 理事

石井 吉彦

ナチュラルシードつまり「自然の種」が会社の名前です。この会社の設立に至った事例があります。それは、15年ほど前のことです。当時私が自然食品店に勤めているときです。我が家は農家で無肥料栽培に取り組んでいたために、この自然食品店にも我が家の野菜を出荷していました。あるお客様が来られて「私はアトピーなのですが、この野菜は食べても大丈夫でしょうか？」と聞かれました。もちろん、我が家の野菜は農薬も肥料も使わない無肥料栽培でしたので、「自信を持って大丈夫です。」といいました。しかし、翌日その方が再度来られて「昨日、食べたやさいのせいでアトピーが出てしまいました。」といわれました。びっくりしてその日は家で親に聞いたしました。いくらなんでも農薬はないでしょうが、もしかして何かの資材を使ったのではないかと思ったからです。しかし、親の答えは予想もしないものでした。「どこの小松菜を持っていったのか？色の濃いものは買った種で作ったもので、色の淡いものは自家採種のものだよ。だから自家採種の種の小松菜を持っていきなさい。」といわれ、再び自家採種の野菜を食べていただきました。すると翌日、「アトピーも出ないし美味しかったです。」と喜ばれました。そのことが、きっかけとなっていくら農法にこだわっても種が自家採種でなければ安心安全はありえないということがはっきりと分かりました。

そして、種の重要さを訴えるべく会社設立に至りました。その後、種に関係する商社に入り種の現状を学びました。そして、食の安全を考えるのであれば種からこだわることが最も重要であることを確信しました。

また、一般的に無農薬や減農薬栽培の農家は収量が悪くて病害虫の被害に苦しんでいます。その原因の一つには「種」が関係しています。農法と種とは切っても切れない関係があるのです。当然ながら一般的な種は農薬や化学肥料は普通に使って栽培しています。しかし、その農薬や化学肥料で育てた種を使って無農薬や減農薬で栽培をしても病害虫に冒されたり、収量が減ってうまく出来ません。一般的な農法であれば一般の種を使っても良いのですが、無農薬や減農薬栽培には無農薬や減農薬の種を使えばうまく育つことが分かりました。私たちは、農事組合法人として新規就農を含めた有機農業を目指している農家たちに有機認証を無償で取得させています。そして、そのことで自立の道しるべとして取り組んでいます。有限会社ではその有機農家を全国ネットワークとして流通へ促しています。消費者の方たちには、食の安全を種という根本から考えるということを伝える為に「シードマイスター養成講座」を開催しています。是非、皆さんも本当のことを知っていただき本物を食べてください。

環境学習講座 in 千葉 ～風を感じて、飛行機を飛ばそう～

10月15日、10時～12時、宮崎公民館で「風を感じて、飛行機を飛ばそう」が小学生を対象に行われた。

この講座は、東日本大震災の翌日に計画されていたが取りやめになったものであり、楽しみにしていたのだろこの日、子供たちの顔が輝いていた。受け付けが始まったころは、18人ぐらいだったがだんだん増えて会場いっぱいになり、30人ぐらいになった。

はじめに、ローソクに線香の煙を近づけて暖かい空気が上昇する様子やカエデの種子がくるくる回りながら落下するのを知ってもらう。さらに風について少し話をするが、みんなの気持は早く紙飛行機を作りたい様子で落ち着かない。

今回、用意した紙飛行機は、誰もが親しんだことのある“ヘソ飛行機”など四種類だ。紙飛行機は丁寧に織り上げれば、最大10秒ぐらいだが、結構長い時間飛ばすことが出来る。

紙飛行機の種類は多く、紹介本が発行されているので紙飛行機を楽しむ方は多いのだと思う。

初めは手のかかる物から始めた。折っていく手順の中に折り紙の大事なテクニックが入っているからで、親子で参加している親御さんには、子供さんにはかかわらないでくださいとお願いした。

子供が親を頼りにして自分の手で作らないからだ。

ほぼ出来上がったところで、紙飛行機の飛ばし方を説明するが、早く飛ばしたい子供たちは落ち着かないので、部屋の隅に籠を置き、数メートル離れた所から紙飛行機を飛ばして、籠の中に入れようとしたが成功しない。



そこで、館長さんに了解して頂いていた、吹き抜けの上から、一斉に紙飛行機を飛ばした時の子供たちの目の輝きは素敵だった。普段出来ないことが出来たのだからだ。

私の子供のころには遊ぶ道具は手で作ることを楽しんでた。広告や古い雑誌を使って紙飛行機や吹き矢を作って遊んでいた。手作りのもので遊ぶことが当たり前だったのが、いつの間にか遊ぶ道具は買うという世界になって久しい。せめて紙飛行機を作り、どうしたらよく飛ばせるのかを考える楽しみを知ってもらいたいと感じた2時間だった。
(文責 荒尾)

平成23年度 市町村とNPOとの連携促進事業 市町村とNPOとの「意見交換会」開催

桑波田 和子

市町村とNPOが“出会い”、相互理解を深める場、また、地域課題を共通認識し、協働して課題を解決するには、どう取り組んだら良いのか共に考える場として、千葉県県民交流・文化課がNPOに提案を募集しました。そこで、NPOからの提案を受け、市町村担当課も出席して意見交換会が行われました。提案は、4分野ごとに10月20日～11月22日の間、千葉市、柏市、船橋市、習志野市、佐倉市で開催されました。

「環境」「IT関係」の分野については11月21日午後1時30分～4時まで、千葉県自治会館でありました。提案団体は、当会以外に、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会、NPOしろい環境塾等5団体に対して、松戸市、千葉市、白井市、八千代市、印西市、栄町の担当者(13担当課)が参加しました。

当会では、「花見川のナガエツルノゲイトウの調査と駆除の検討」を地域課題として千葉市へ提案しました。当会が作成した「東京湾から印旛沼までのわたしのエコウォーキングマップ」を活用し

た花見川ウォーキングの活動を通して、5年ほど前から花見川にナガエツルノゲイトウが広がりつつあることを千葉市には伝えていました。最近は繁茂している場所がさらに広がり、当会会員の団体での調査も参考にしました。

交換会は、粉川コーディネーター(武蔵大学教授)の進行のもと、各地域課題についてNPOから現状を説明し、対応する市町村からも現状などについて説明があり、協働に向けての意見交換を行いました。また、参加者に配布された100万チーバ通貨を、支援したい事業に出して、どの提案の支持が多いか、またなぜ支援するかなど意見交換がありました。当会は参加者とコーディネーターと合わせて980万チーバが集まりました。

(チーバが本物のお金だと良いのですが・・・) 当会の提案は、千葉市だけでなく流域の視点が重要で広域となりますが、まず千葉市との協働の取り組みを進めていきたいと思えます。今後は、提案の具体化に向けて市町村とNPO双方から、県に申し出がある場合、協働相談会が開催されます。

「環境ひろば千葉」のホームページを 12月9日から運営開始いたします

このサイトは、環境パートナーシップちばの運営委員会が、会員の皆様の「活動をつなげ、ひろげる」ことを目的に開設します。

試験運用中ですがほぼ出来上がってきましたので、一度ご覧ください。

【環境ひろば千葉ホームページ】⇒

<http://kanpachiba.com/hiroba/>

ブログ機能を使い、会員の皆様がいつでも投稿できるようにしました。

当面は、イベント情報に限定して情報発信していただき、皆様のご要望をお聞きしながら、内容の充実を図ってゆきたいと考えております。制作、運営とも運営委員のボランティアで行っておりますので、対応に限界があらうかと思いますが、皆様と一緒に役に立つサイトに育てていただければと思います。

12月8日まで、自由に投稿の練習ができるようにします。ホームページの「投稿のしかた」をご覧ください。ご不明点があれば、下記のとおり、操作研修会も開催しますのでお気軽にご参加ください

【会員の皆様のご参加までの流れ】

1. サイト内容の確認

(右の概要と右記 URL を開いてご確認ください)

2. 投稿の体験

12月8日まで、共通のユーザー名とパスワードでログインし、投稿を体験してください(詳しくはホームページの「投稿のしかた」をご参照ください)。

3. ホームページから参加申込

⇒ 専用申込ページあり

12月9日以降使用するユーザー名、パスワードの発行申込と下記の研修会参加申込

4. ホームページ投稿研修会開催(希望者)

日時: 12月8日 9:30~11:30

会場: 千葉市ビジネス支援センター

きぼーる14階 商談室

(千葉市中央区中央4-5-1)

持ち物

- ・お持ちのノートパソコン
- ・ネット接続用LANケーブル
- ・投稿練習用イベント情報(チラシ)

対象: 環境パートナーシップちば会員

参加費: 500円 先着10名

※12月9日 ホームページ本番運用開始

【ホームページの概要】

<http://kanpachiba.com/hiroba/>

環境ひろば千葉		
【会員団体】 ・団体A ・団体B ・団体C ↓ ホームページのある団体はリンク	・イベント情報1 ・イベント情報2 ・イベント情報3 ↓ 会員団体・個人の投稿タイトルを投稿日時順に表示し、タイトルクリックで投稿内容を表示。	【参加者】 ・団体A ・団体C ・個人X ↓ 投稿した団体・個人の投稿履歴を表示 【投稿方法】 【投稿入口】

ログイン画面
WordPress
ユーザー名:test
パスワード:test

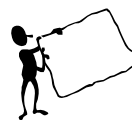
メニュー画面
投稿

投稿画面

12月8日まで、どなたもこのユーザー名とパスワードで「ログイン」して、投稿を体験できます。

お問い合わせ
環境パートナーシップちば 運営委員
平田まで 090-1103-8995
info@kanpachiba.com

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 7 — おききました！ この人・この団体 「NPO 法人四街道メダカの会」



「NPO 法人四街道メダカの会」会長の任海正衛さんからお知らせをいただき、表敬とインタビューを兼ねて、数年ぶりにムクロジの里を訪ねました。

設立の趣旨と経緯

平成13年に「四街道メダカの会」は任意団体として設立されました。四街道市に生息する在来のメダカの保全とその生息する自然環境の保全および多様な生き物の再生を目的とする活動を展開し、四街道市地域の自然環境の保全、再生に貢献するという趣旨です。

平成15、16年度には、四街道市「ともに築く地域社会」の提案実施事業に参加し、放棄されていた休耕田を地権者から借り受けました。そして、メダカや多様な生き物が生息する自然公園として造成を行い、そこを「栗山鳥ノ下自然公園」と命名しました。その後、会員と地域の市民により、ここを拠点として維持管理や水辺の生き物探検隊などのイベントを行う「ムクロジの会」を結成しました。会の名称は、この地に高々とそびえるムクロジの樹に因んでつけられました。

平成18年に「NPO 法人四街道メダカの会」が設立されました。今年は、5年目を迎えています。以前から継続していた活動に加えて、この法人は、四街道地域の自然に対して自然環境の保全、生き物の調査とそれらの再生に関する事業を行い、四街道市民の住みよいまちづくりに寄与することを目的として活動を続けています。

特に印象に残った活動は、①多様な動植物保全のため、それら生き物にとって健全生態系を広げるためのトラスト運動（市民より寄付を募って土

地を買い取る運動）②市民（子どもたちや大人）に自然に親しむ機会を作るため自然環境下におけるイベントの実施 ③河川等の自然環境調査、自然環境保全、生き物の再生に関する受託事業などです。

四街道メダカの会「いきものにぎわい市民活動大賞」を受賞

10月14日、高輪プリンスホテルで行われたGEA（地球環境行動会議）の開会式で、メダカの会は「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」において市民活動大賞（富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞）を受賞しました。GEAは日本の政界、財界からなるNGOで、当日は皇太子殿下、野田総理、細野環境大臣も出席しています。受賞は、09～10年にメダカの会がムクロジ会と共に実施した、「ムクロジ自然の里」のステップアップ事業を評価したもので、里山自然の保全や生物の調査、市民への自然とのふれあいの場を提供している事をたたえたものです。

インタビューを終えて

今回の受賞の中心は「ムクロジの自然の里」についての活動が評価されたものですが、そのきっかけは、「ともに築く地域社会」の提案実施事業の中で、放棄されていた休耕田を地権者から借り受けたことから始まります。地権者自身がとても、自然保護に熱心な方であることと、その方との信頼関係が大きな支えになっていることを伺うことができました。また、当日はオオタカも会いに来てくれ、とてもいい時間を過ごせました。オオタカにも感謝です。（文責：加藤）



運営委員会報告

10月運営委員会

日時 10月20日(木)

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・平成23年度環境学習指導者養成講座
- ・環境学習コーディネーター人材育成講座実施
- ・水草探検
- ・千葉市公民館講座 他

【協議】

- ・環境ひろば千葉の開催
- ・環境学習指導者養成講座(導入コース)
- ・10月エコサロン開催
- ・企業・NPOによるパートナーシップ事業印旛沼流域・体験・環境フェアについて
- ・市町村とNPOとの連携促進事業「意見交換会」について

11月運営委員会

日時 11月18日(金)

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境学習指導者養成講座(発展コース)準備
- ・印旛沼流域環境・体験フェア出展
- ・10月エコサロン開催 他

【協議】

- ・「環境ひろば千葉」説明会について
- ・HPへのイベント情報のアップについて
- ・環境学習指導者養成講座(発展コース)
- ・技能向上講座の募集
- ・企業・NPOによるパートナーシップ事業
- ・12月エコサロン開催
- ・市町村とNPOとの連携促進事業「意見交換会」について

お知らせ

12月エコサロン開催

日時：12月13日(火)午後6時

会場：千葉市民活動センター
大会議室

話題：私からの話題提供

内容：参加者全員が話題提供し、
みんなで意見交換のしゃべり場

参加費：500円

申し込み：

kuwahatak@hotmail.com

FAX：043-258-5437

GEOC「環境政策提言セミナー 第1回」開催のお知らせ

環境省では、平成13年度から毎年、民間の視点・アイディアを環境政策に活かすため「NGO/NPO・企業環境政策提言」事業を実施しています。

政府全体としても「新しい公共推進会議」で、市民による政策提案制度の積極的導入が提案され、今年大幅に改正された「環境教育等促進法」にも、「政策形成への民意の反映」が位置づけられるなど、今、「政策提言」に注目が集まっています。

■日時：2011年12月14日(水) 18:30~20:45

■会場：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
セミナー・スペース

■主催：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

お申込み・お問合わせ

地球環境パートナーシッププラザ(担当：島田)

TEL：03-3406-5180 FAX：03-3406-5064

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 業務部
業務管理グループ気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		